

日 時 令和6年10月31日(木)

第3校時 10:45~11:30

対 象 みどり第1学年5名

授業者 伊藤 順子

会 場 プレイルーム 前

1 単元名 あわせていくつ ふえるといくつ

2 単元の目標

加法の意味と和が10以内の加法計算の仕方を理解し、数量の関係に着目して加法の意味や加法計算の仕方を考える力を養うとともに、加法の意味や加法計算の仕方を操作や式に表して考えた過程を振り返り、そのよさを感じ、日常生活に活用しようとする態度を養う。

3 題材の評価規準

ア知識・技能	合併や増加など、加法が用いられる場合について知り、加法の意味を理解し、和が10以内の加法計算ができる。
イ思考・判断・表現	加法の意味に着目し、合併や増加などの場面を加法の式に表し、その計算の仕方を1位数の構成や操作などを用いて考え、表現している。
ウ主体的に学習に取り組む態度	加法の意味や加法計算の仕方について、数構成や操作などを用いて考えた過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。

4 指導観

(1) 題材観

本単元では、以下のように位置付けられていることを受けて設定した。

<p>特別支援学校小学部学習指導要領 各教科[算数]○2段階(1)目標 ア 10までの数の概念や表し方について分かり、数についての感覚をもつとともに、ものと数との関係に関心をもって関わることについての技能を身に付けるようにする。 イ 日常生活の事象について、ものの数に着目し、具体物や図などを用いながら数の数え方を考え、表現する力を養う。 ウ 数量に関心をもち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぶ態度を養う。</p> <p>各教科[算数]○3段階(1)目標 ア 100までの数の概念や表し方について理解し、数に対する感覚を豊かにするとともに、加法、減法の意味について理解し、これらの簡単な計算ができるようにすることについての技能を身に付けられるようにする。 イ 日常の事象について、ものの数に着目し、具体物や図などを用いながら数の数え方や計算の仕方を考え、表現する力を養う。 ウ 数量の違いを理解し、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようとする態度を養う。</p>

(2) 児童観

学習理解に差があり、特別支援学校学習指導要領の2段階と3段階に大きく分かれる。

- ① 日常的に介助員や教員が一人つかなければ、安全を確保できない児童が一人いる。集中が続かず、多動であり、学習も大人の支援がないと難しい。
- ② 書字が苦手な児童がおり、1学期末に10までの数字が書けるようになってきた。10までの数字表を手元に置くという支援を行い、それを見て課題を進めている。
- ③ 一度学習内容が分かると、一人で課題を進められる児童が二人いる。1時間の中で、多くの問題に取り組むことができる。
- ④ 不登校児童が一人おり、その場の説明で理解して学習に取り組むことができるが、学習の積み重ねができていない。また、問題数が少なくないとモチベーションが下がるため、課題を少なくし、できた時には賞賛するようにしている。

以上のような実態差がある。また、全児童が、話したり自己表現したりすることを好む。話を聞くより、自らアイデアを出し、それを伝えたいという願いをもっている。このようなことから、個人個人が決めた具体物を用いて、たし算の問題を作ったり、他の子の作った問題を解いたりする場を設定しようと考えた。そうすることによって、主体的に活動したり、よりたし算についての具体的なイメージがわいたりすると考えた。

(3) 教材観

1学期に、10までの数の合成と分解を行った。5人中4人の児童が、自らブロック操作をしながらワークシートに取り組むことができた。個別課題では、より多くの問題に取り組みたい児童と、少ない問題数のプリントなら課題に取り組むことができる児童に分かれる。本単元で、児童が自ら手指を動かして自分で問題を作ったり、友達が具体物を使って考えた問題に取り組んだりする活動を通して、児童が主体的に加法の問題に取り組むことができると考えた。また、式だけを見ると、加法と減法は混乱を招きやすいが、こうした経験を通して、加法の意味理解をし、学習の定着を図ることができると考えた。

5 年間指導計画における位置付け（児童の実態に応じて、変更する場合がある）

- ・なかまづくり・とかず
- ・あわせていくつ ふえるといくつ
- ・のこりはいくつ ちがいはいくつ
- ・10よりおおきいかず
- ・たしざん
- ・ひきざん
- ・おおきいかず
- ・たしざんとひきざん

6 単元の指導計画と評価計画（全8時間）

時	目標	学習内容・学習活動	評価規準(評価方法)
第1時	○合併の場合の数量関係に着目し、加法の意味や式の表し方が分かる。	○10の合成や分解を振り返り、教師が提示する具体物で合併について、式の表し方を知る。	○合併の場面について、加法の意味や、式の表し方を理解できる ア (発言・記録・行動観察)
第2時	○合併の場面を加法の式に表し、答えを求めることができる。	○身近な具体物を用いて、たし算の式と答えを表す。作った問題を出し合う。	○身近な物を使って、加法の式に表すことができる。加法の答えを求めることができる。 イ・ウ (発言・記録・行動観察)
第3時	○増加の場面を加法の式に表し、答えを求めることができる。	○増加の場面を、式に表し答えを求める。 ○身近な具体物を用いて、たし算の式と答えを表す。作った問題を出し合う。	○身近な物を使って、加法の式に表すことができる。加法の答えを求めることができる。 イ・ウ (発言・記録・行動観察)
第4時(本時)	○合併・増加の場面を加法の式に表し、答えを求めることができる。	○身近な具体物を用いて、たし算の式と答えを表す。作った問題を出し合う。	○身近な物を使って、加法の式に表すことができる。加法の答えを求めることができる。 イ・ウ (発言・記録・行動観察)
第5時	○文章問題を通じた加法の意味理解ができる。	○文章問題を聞いて、立式して答えを求める。	○文章問題の式を立て、答えを求めることができる。 ア・イ (発言・記録・行動観察)
第6時	○0を含む場面で、数量の関係に着目し、加法の意味や式の表し方が分かる。	○0を含む問題に取り組み、答えを求める。	○0を含む問題の意味を理解し、式に表し答えを求めることができる。 ア (発言・記録・行動観察)
第7時	○合併・増加の場面を加法の式に表し、答えを求めることができる。	○身近な具体物を用いて、たし算の式と答えを表す。作った問題を出し合う。	○身近な物を使って、加法の式に表すことができる。加法の答えを求めることができる。

			イ・ウ (発言・記録・行動観察)
第8時	○合併・増加の場面を想定して問題を作ったり、加法の式に表し、答えを求めたりすることができる。	○身近な具体物を用いて、加法を扱った短いお話を考える。作った問題を出し合う。	○身近な具体物を用いて、加法を扱った短いお話を考えたり、問題の答えを求めたりできる。 イ・ウ (発言・記録・行動観察)

7 手立て

- 全体の時間には、児童が主体的にたし算について考えられるように、児童が選んだ具体物で計算について考えたり問題を作ったりする場を設定する。(個別)
- それぞれの児童が作った問題に取り組むことで、友達との考えの違いを感じられるように言葉掛けの支援をする。(個別・協働)
- 計算や発表に使う具体物は、自分の身の回りの鉛筆等でもよいが、具体物のコーナーを用意する。ブロック等を自由に選べるようにする。実態に合わせて、粘土や普段使っているおもちゃも準備する。段階的な支援として、数字の書いたケースや袋を用意し、具体物を入れられるようにする。(個別・協働)
- 個別課題のワークシートを何種類か用意し、3枚目以降は、なるべく児童が自ら問題数や枚数を選択できるようにする。
(個別)
- まるつけは、先に付けた方がよい児童と全て終えてから付けた方がよい児童がいるので、実態に合わせて行う。

8 本時の指導（全8時間中の第4時）

(1) 本時の目標

- ・合併や増加の場面を設定し、式に表すことができる。
- ・合併や増加の場面を加法の式に表し、答えを求めることができる。

(2) 本時の展開

時間	○学習内容 ・学習活動	指導上の留意点 配慮事項	評価規準
導入 5 分	○前時の振り返りをし、本時の見通しをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">①たしざん ②もんだい ③ぷりんと</div>	・活動内容が分かるよう、全体で問題作りの確認をする。	
展開 35 分	1 身近な物の中から、2つの数量を合わせ、いくつになるかを考える。 2 1で扱った物を式に表す。 2つの数量を合わせ、いくつになるかを操作しながら考える。 3 全体で、問題を出し合う。 4 個別課題に取り組む。	・具体物として使用できるものをコーナーに用意しておく。 ・具体物を数えやすいように、入れ物を用意する。 ・式を書き込むワークシートを用意する。 ・写真を記録として残し、自分の考えを振り返られるようにする。 ・具体物をそれぞれ10個ずつ用意する。 ・たす数とたされる数を選び、今回は答えが10までのたし算の学習なので、答えが10以内に作ることを確認する。 ・問題となる具体物を近くで直接見合えるよう、探検ボードを用意する。 ・児童に合った個別課題を用意する。 3枚目以降は、児童が課題を選べるように何種類か問題を用意する。	・具体物を使って、たし算の式を作ることができた。 (発言・記録・行動観察) ・問題の答えを求めることができた。 (発言・記録・行動観察)
終末 5 分	○学習の振り返りをする。	・問題作りをし、友達の作った問題に取り組むことができたかどうかを確認することで、達成感を味わわせ、次時につなげる。	

(3) 本時の評価

- ・具体物を使って、たしざんの式を作ることができたか。
- ・友達が作った問題の答えを求めることができたか。